

No.3

Hi from Kori

姉妹都市交流提携20周年を記念してカナダ・キャンモア町から英語活動教育指導員として来町したコーリー・チューイーさんのホットなコラム。

As I plan for my venture back to Canada for Christmas holidays I can't help but long for those family traditions in preparation for the holidays. Every year, the daunting tasks of hanging the Christmas lights outside in the -20C weather, or climbing up the broken ladder to the dusty attic to hunt for our fake Christmas tree from the 1960s, all seem annoying at the time, but secretly I love them. Planning for Christmas in my family is a good two month long excursion of love, sweat, arguments and sessions of laughter so long and hilarious you can't breathe. I remember my sisters started a rule when I was 6 years old, that I couldn't play Christmas music on the piano or trumpet until 2 months before Christmas; without this rule, I would start playing "Jingle Bells" in July... secretly I still do!

There are three things during the holidays that I look forward to every year. The first is the cooking marathons with my mother. We set aside 2 whole days (at a good 12-14hrs per day), one to make over 800 perogies (Polish dumplings) and another to make dozens of cookies.

Another tradition I love is stealing a bottle of Crown Royal (Canadian Whiskey) from the cabinet and sitting by a small heater with my dad in the garage and laughing until my mother finds us and gets angry that we are not helping wrap presents.

I also used to love laying under the Christmas tree for hours, looking up at the lights, and listening to traditional Christmas music.

I am counting down the days until I get to lay under my family Christmas tree in Canada.



休暇に帰国する計画を立てながら、家族の恒例行事のクリスマス準備を待ち焦がれる気持ちでいっぱいになっています。氷点下20度の中で行うライトアップの飾り付け、ほこりっぽい屋根裏に壊れたハシゴで60年代からのツリーを取りに行くこと、その時は煩わしく思えたけれど、実は密かに大好きです。わが家のクリスマス準備は、ゆうに2カ月間もの愛と汗と口げんか、そして息ができないほど続く陽気な笑いなのです。6歳の時には姉が「クリスマス2カ月前まではピアノでもトランペットでもクリスマスソングを演奏してはいけない」という決まりを作りました。

もしこんなルールがなかったら、7月にはジングルベルを弾き始めるところです（実は密かに弾いていたらしい）。毎年楽しみにしていることが3つあります。その1つが母とのクッキングマラソンです。

まる2日間、それも一日12時間から14時間もかけて、一日はポーランドの焼きだんごのピロシキを800個、もう一日は何十個ものドーナツを作ります。もう1つ好きなのがカナダのウイスキー「クラウンロイヤル」を戸棚からくすねて、父と車庫の小さなヒーターの横に座って飲むこと。そしてプレゼントのラッピングを手伝わない、と母が怒ってくるまで笑っていること。

最後にもう一つ好きだったこと。それはツリーの真下に寝転んで、何時間も光るライトを眺めること、そして伝統的なクリスマスの音楽を聞くこと。今は自宅のツリーの下に寝転ぶ日まで、カウントダウンする毎日です。

(訳：宮地晶子)

【ちょっと豆知識】

贈り物といえば、日本人は「包装紙をていねいにはがす」あるいは「失礼に当たるのでお客さまが帰るまで手をつけられない」という人が多いようです。包装紙をびりびりと破いて喜びを表す習慣のある国の人は「喜ばれなかったのか」と不安に感じるようです。欧米の人にプレゼントをもらったら、「May I open it? (開けてもいいですか)」と聞いてすぐ開け、喜びを表しましょう。包装紙もびりびり破くくらいでいいのです。

英語学習に関して言うと、実用英語検定準2級レベルからは電子辞書が使い勝手が良い。準2級レベルになると日本語も結構難しい。そんな時電子辞書なら、すぐジャンプして広辞苑など

紙派の意見は「単語を調べるのに時間がかかる分だけ頭に入る。前後の言葉も目に入って吸収するものが多い」などです。「なるほど」と思います。でも電子辞書には「思い立ったらすぐ引ける。発音が確認できる。いろいろな辞書を引ける」というメリットがあります。

電子辞書か紙の辞書か、という議論はけっこうあります。「どちらが早く単語を探せるか」「どちらが記憶に残りやすいか」という実験が行われているほどです。

英語教育指導員 宮地晶子の
エイゴのマナビカタ

第66回
電子辞書と紙の辞書

で意味が確認できます。寄り道の楽しさ、という点でも電子辞書は今や紙の辞書に引けをとりません。先日、数年ぶりに電子辞書を購入しました。そうしたらなんと、価格は数年前の半分なのに内容は何倍にも充実していました。

入っている情報量がとにかく多い。さらにその利便性にびびり。タッチパネル式で、銀行のATM機のタッチ画面操作のように、指で触るだけで使えます。タッチペンもついているので、DSに馴染んだ世代には楽です。

さらに驚いたのは、音声面の充実ぶりです。辞書の見出し語ばかりではなく、英検用単語集、TOEIC (トイック) 国際コミュニケーション用表現集、各種外国語会話などが音声で聞けます。リズムに合わせて単語を覚える「チャンツ」なんていうプログラムまであります。

有名なスピーチも入っています。オバマ大統領の「Yes, we can!」も丸ごと聞けます。寄り道の楽しさ、そこから吸収できる「知」という点でも電子辞書は負けてないなあ、と思いました。